

目的 現在、家庭科の被服製作実習で取り扱う教材には多くの問題をかかえている。技術的側面についてみただけでも、限られた時間内で被服構成技術の原理・原則の理解、基礎的な技術の修得や確実な技術の定着を図らなければならない。しかし、現状は、時間に追われ、完成させることに主眼が置かれがちになるという実態があり、そこには、教材に含まれる被服構成技術の吟味が不足しているために、学習者のレディネスに合った適切な教材が供されているとは考えにくい。そこで、本研究では、これまで渾然として未整理のままである被服構成技術を分類し、教材の技術的な分析を試みた。

方法 小・中・高校で用いられる家庭科の教科書、学習指導要領、指導書と、短大、大学の家政系で用いられる被服構成実習用テキストのなかから、学校教育で取り扱われる範囲内の被服構成技術を抽出し、分類をおこない、それにもとづき教材を分析する。

結果 1). 全ての被服構成技術は「基礎技術」、「基礎縫」、「部分縫」の技術群に大別することができ、それぞれをさらに2, 3, 3に細分することにより、教材に含まれる技術の構成が明確となった。

2). 小・中学校のそれぞれの教材について、初めて出現する技術の数と時期、および製作所要時間から、学年を追って教材の難易度に順序性のないことがわかった。

1) 高木直；山形大学紀要（教育科学）9, 459（1988）